

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4372400822
法人名	特定非営利活動法人長寿会
事業所名	グループホームひまわり21岱明
訪問調査日	平成 20 年 3 月 27 日
評価確定日	平成 20 年 4 月 21 日
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年4月9日

【評価実施概要】

事業所番号	4372400822
法人名	特定非営利活動法人長寿会
事業所名	グループホームひまわり21岱明
所在地 (電話番号)	熊本県玉名市岱明町山下1037番地3 (電話) 0968-66-8777
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5
訪問調査日	平成20年3月27日

【情報提供票より】(19年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 12 月 1 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	13 人
利用定員数計	9 人
常勤	6 人
非常勤	7 人
常勤換算	4.4 人

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,975 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(60,000 円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	50 円
	または1日当たり		850 円	

(4) 利用者の概要(12月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.6 歳	最低	78 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	淡河黒田医院 ふじさわ脳神経外科クリニック 中村歯科
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

梅林と住宅に囲まれた、自然豊かな一画に、一般住宅のような佇まいで位置したホームである。入居者の心を大切に本人本位のケアが提供されている。起床時間はあえて設定せず、朝食時間もゆとりを持ち、心身の状況・本人のペースに合わせた支援が行われている。日課としてレクリエーションプログラムを組むのではなく、生活全般を職員と共に過ごし、安心できる生活環境の提供がなされている。職員は入居者との関わりから得る楽しみ・喜び・学びを自分の喜びとし、介護現場で働くことに誇りを持っている。ホーム主催の「日帰りバスツアー」には、本人・家族に加え近隣住民の参加もあり、地域との交流・コミュニケーションが上手に行なわれている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	1) ヒヤリハットの取り組みに関しての改善課題では、ヒヤリハットを記録し、職員会議やケアカンファレンスで全職員に周知徹底を図り、具体的な改善策を検討して再発防止に取り組む手順を定め改善している。2) より食べやすい食材提供の検討では、キャベツなどの生野菜を少なくし、温野菜を提供するなど改善が実施されていた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は担当職員に振り分けられ実施された。職員は「項目ごとのサービスを振りかえり、評価することで、現状を認識し、気づきを得る良い機会となった」と感想を述べており、より良いケアにつなげる研修の機会として、効果的に活用されたことが窺える。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議ではホーム側から事業報告・入居者の活動・職員研修・外部評価の概要などが報告されている。運営委員は事務的な会議だけではなく、餅つき大会などの行事にも参加し、入居者や職員・近隣住民と楽しみを共有しており、地域との交流に大いに貢献している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見や不満で直接言いにくいことは、家族世話人を通して伝える体制がある。投与されている薬の影響に不安を感じる家族の気持ちが世話人を通して伝えられ、担当医と相談する機会が設けられる等、家族の安心に繋がったという事例もあり、それぞれのケースに添った対応が行われている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に入り、区役として回覧板や「まち便り」の配布を担当している。職員は入居者と一緒に近隣住宅を回り、配布作業を行い、住民との交流を図っている。外出や散歩時に近隣住民と気軽に挨拶を交わし、野菜の提供を受けるなど、住民として地域に溶け込んでいることが窺えた。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「体が弱くなり、自信喪失になりがちな高齢者が、地域の中でその人らしく暮らしていけるように、入居者の尊厳を敬い、心を大切に介護を提供したい。そのために、職員は日々、自己目標を持って研鑽し、学び続けたい」という思いを託し、独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	所長は全体会議・ケアカンファレンスなど、機会を見つけて「高齢者の心のケア」について、入居者のケースごとに職員と意見を交換し、課題の発見と解決のために努力している。職員の言葉使いは常に「〇〇さん〇〇しましょうか?」と入居者に意思・決定権を預けた声かけをし、本人の意思を尊重した理念の実践が行われていた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所として町内会に参加している。また、入居者個人で婦人会会員になっている人もいる。町内の区役として、回覧板・まち便りの配布を担当し、入居者と職員と一緒に地域住民に配り、顔見知りになる良い機会にしている。外出や散歩時に近隣住民と気軽に挨拶を交し合い、野菜の提供を受けるなど、地域との付き合いは上手く行っている。	○	「認知症高齢者」について、住民の理解を深めるため、地域の方々に声掛けし、勉強会を開催することが検討されており、更なる交流が期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は担当職員に振り分けられ、日頃のケアの振り返りとして取り組まれた。室温・臭い・気配り・身体状況の観察など、自己評価実施による職員の気付きは多く、質の改善への意識向上に効果的に活用されている。また、所長は外部評価による客観的視点を、改善への可能性を探る手段として、前向きに捉えている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者・家族世話人代表・近隣住民・民生委員・区長・行政職員の参加で開催されている。会議ではホーム側から事業報告・入居者の活動・職員研修などが議題となり、外部評価についての説明も行われている。運営推進委員の協力で、地域行事に参加しやすくなり、ボランティアを紹介する等、地域との交流に役立っている。	○	事務的な会議だけではなく、法人主催の餅つき大会には、運営推進委員も参加し、入居所や職員、近隣住民と一緒に楽しむ機会があり、委員の活躍は地域との関係作りに貢献している。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議委員である行政の福祉担当職員が、「地域との交流を広げたい」というホームのニーズを知り、幼稚園児・保育園児の訪問や小学生のボランティアを仲介するなど、協力的な支援が行われている。今後、運推会議に包括支援センター職員の参加を依頼し、行政との関係作り強化を検討している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	全利用者の家族が週一回から月一回の割合で面会に訪れており、入居者の暮らしぶりについて、面会時に口頭で報告されている。また、年4回発行される機関紙「ひまわり21」には、入居者の暮らしぶり、バスツアーやイベント参加の様子、新入職員の紹介など写真を豊富に取り入れ、様子を伝える取り組みをしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見・不満など、言いにくいことは、家族世話人を通して伝えられる仕組みがある。精神安定剤の投薬で、入居者への影響に不安を持った家族の気持ちが世話人を通して所長に伝えられた際、家族・担当医・職員で話し合う機会を持ち、家族は医師からの説明で、安心に繋がったこともあった。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同法人内の他地域にあるグループホームとの交流は日常的であり、また、隣接する有料老人ホームと兼務している職員もいるなど、法人内での異動によるダメージを防ぐための工夫がある。新任職員は、入居者の特徴・性格・好きな話題、個性など、出来るだけ早く、多くの情報を把握することが求められ、そのための研修も行なわれている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年、法人内の事業所はテーマを決め、研究発表を行なう研修がある。2007年度、ホームの職員は「より良いチームケア」をテーマとした研究に取り組んだ。「チームメンバーとして、言いにくいことでも、いかにして伝えれば、信頼関係を損なわないか？」など、課題を改善へ繋げており、研修の成果が窺われた。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みを	GH玉名郡連絡協議会に参加している。ホーム空き状況・ターミナルケアについての取り組み、人員確保、夜勤者の状況改善など、共通する課題について話し合い、問題解決に役立っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前は必ず本人と家族に事前見学を依頼している。入居前、デイサービスを利用している人の場合、職員がそこに出かけ自己紹介をしている。また、隣接の有料老人ホームを一時的に利用することも可能であり、職員と馴染みになった後、ホームへの転居を行なう入居者もあり、法人内の機能が活用されている。帰宅願望があり、家族を心配する入居者には、家族と電話で話をしてもらい、不安を軽減し、心に寄り添う支援で、安心につなげる努力をしている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が、人への思いやり・人生の重み・感謝の心など、入居者との生活の場から学ぶ喜びを語る様子は印象的であり、職員の真摯な姿勢が見られた。芋だんごの作り方、干し柿作り、花の育てかた、野菜づくりなど、若い職員にとって全て新鮮で、学びの場になっており、支えあう関係が出来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	耳が不自由な人には筆談やジェスチャーで心意を汲み取り、問いかけへの反応を観察したり、認知症だからと決めつけずに、楽しそうに思えることは、思い切って挑戦してもらおう機会を作っている。ペットボトルを利用したボーリングセットを作り、試してみると、日頃活発ではない入居者が思いがけなく興味を示した事例もあり、希望・意向発見への努力が見られた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の希望や、関係者からの情報を得、ホームでの過ごし方を暫定的に計画し、3～6ヶ月後に職員の気づき、生活日誌、アセスメントなどを参考に評価し、課題を見つけ、充実したケアプランを作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成	状態に急変が生じた際は、職員で緊急ミーティングを開き、ケアプラン内容の変更・追加などメモを作成し、ケアプランに添付し、職員間で共有している。	○	状態急変による介護計画見直しについての手順見直しと実施が検討中である。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同法人が持つ他のGHや有料老人ホームと、日常的に交流しており、他事業所の利用者や職員とも馴染みになっている。合同バスツアー・餅つき大会なども行なわれ、入居者・他事業所利用者・家族・職員・近隣住民・運営推進委員などとの交流の場が多く作られ、法人全体の機能・人材を柔軟に活用していることが窺えた。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
	18	43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からの主治医を希望する際は、家族同行を要請し継続受診を支援している。状態急変の場合は協力医の夜間往診を受けることができる。また、精神科医の往診もあり、入居者の精神面でのケアを行なう他、入居者の希望に添った受診の支援体制がある。		
	19	47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時にターミナルケアへの対応方針を説明しているが、ホームでの看取りの例はまだない。職員は応急手当・急変時の対応・看取りの事例研究など、勉強会を開催し、介護技術や質の向上に務め、ターミナルケアへの心構えを構築しつつある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
	20	50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個性的な考えを持つ気難しい入居者に対しても、その言動を抑制するのではなく、気を逸らすなど、機転の効いた対応が見られた。トイレや入浴の誘導は本人だけに聞こえるように、明るい表情で、さりげなく促す優しさが観察された。		
	21	52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間は一応設定されているものの、本人の体調・気分が優先され、自由な暮らしが守られている。訪問調査日、10時半過ぎに、遅い朝食を摂る人、居室でテレビを見ながらお菓子を食べる人、ホールでストントン節の替え歌を歌う人、昼食用の下ごしらえを手伝う人など、過ごしたいように過ごしている生活が観察された。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の購入には入居者と職員が一緒に出かけ、食材選び、袋詰めなど共同で行なっている。また、野菜の下ごしらえ、台拭き、お茶だし、箸配りの手伝いなど、入居者が出来ることも多く、職員は上手に依頼している。職員は料理のメニュー・材料・調理法などを説明しながら配膳し、BGMを流し、食事が楽しめるような工夫がみられた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望者は毎日入浴することができる。ザボンやミカンの皮を入れた湯・菖蒲湯・夏にはムトウハップ湯など、工夫している。入浴拒否の入居者には、就寝前に清拭することで、清潔を保つ努力をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの出来ること・出来ないことを見極め、出来る範囲のことを楽しみごととして対応する仕組みがある。料理の下ごしらえ・配膳・テーブル拭き・楽しい歌のリーダーなど、役割を演じる機会作りへの支援が見られた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	「まち便り」の配布にご近所を訪問したり、食材や電池・下着などの日用品を買いにスーパーに行ったり、近所の神社まで散歩に出かけている。更に、行きつけの美容室で髪を整えたり、地域の福祉祭りに出かけるなど、本人のペースに合わせた外出支援が見られた。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にセンサーチャイムが設置されており、入居者の出入りはスタッフが見守っている。職員は徘徊の可能性のある入居者と一緒に回覧板を持ってご近所を訪問し、日頃からコミュニケーションをとりながら、見守りの依頼をしている。	○	間違えて、他人の居室に入る入居者がおり、入室されるのを嫌う入居者が自室のカギを内部から施錠していた。他の人の入室を防ぐための対策が必要かと思われる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年に2回行われている。消防署への直通電話、警備会社との火災監視サービス契約などを整備し、災害に備えている。また、人手が少なくなる夜間に備え、隣接する住民2人と待機職員契約を行ない、災害時の支援を依頼している。幸いこれまでに出勤する事態は起きていない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食ごとにチェックされ記録されている。食事が少ない場合は、寒天・プリン・ヨーグルト・牛乳など、食べやすいもの、栄養価の高い食品で代用するなど工夫している。塩分制限は必要な場合味噌汁の量を減らし、カロリー制限の場合は主食で減らすなど、一人ひとりの状態に応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく採光の良い広いリビングには、ゆっくりしたソファとテレビがあり、くつろぎの空間になっている。リビングの大きな窓からは、季節の草花が望め、野鳥の鳴き声が聞こえるなど、自然に囲まれた環境で、気取りのない普通の家庭の空気が流れている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の思いが、そのまま反映されているように、居室の雰囲気は様々である。女性らしく整理整頓され、花が飾られている部屋、ベッドと整理ダンスだけのシンプルな部屋、畳にお布団、卓袱台とテレビで、ゆっくり寛げそうな部屋、本人の心と居心地良さを大切にしているホームの姿勢が窺われた。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームひまわり21 岱明
(ユニット名)	1ユニット
所在地 (県・市町村名)	熊本県玉名市岱明町山下1037-3番地
記入者名 (管理者)	堀 武志
記入日	平成 19年 12月 14日

(様式1)

自己評価票(参考例)

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住みなれた地域の中でその人らしく暮らし続けていくための生活を支援できるように職員全体で理念の大事さを理解し共有した上でケアが出来るように徹底している。	○	今以上に地域との連携強化を図る事を大事にしていき認知症高齢者の方が地域で活動しやすいように講演会や研修会を開催できるようにしていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・運営方針にもとづいて事業所目標を打ちたてて更に個人の年間目標を作成して常にそれらを意識して業務に取り組むようにしている。またホーム内に明示して来客者にも理解してもらえるようにしている。	○	スタッフ全員が理念の意味を熟知しケアの質を深めてより質の高いサービスを提供できるように日々勉強会や事例を通じた体験学習でスキルアップを図っていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご利用者にとって今まで住みなれた地域の中で顔なじみの関係や周囲の見慣れた環境の中で生活をしていただける事を大切にしているように地域との関係を疎遠にならないように家族や本人の要望を聞きながら実践できるように努めている。	○	家族の思いや本人の暮らしの継続性を大事にしながらいずれも事業所の大事にしている部分を家族や地域の中で理解を得れるようにしていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	利用者との散歩を行なう際や職員が常日頃より近所の方に対して声かけを自然に行いながら近隣同士気軽に声かけをできる関係が出来ている。また、立ち寄っていただいたときにはお茶をすすめたり散歩の際に近所の方から野菜を頂いたりしている。	○	今後もホームでの行事に参加していただいたり日頃からのコミュニケーションを通じていい関係を継続していきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・地域行事への参加を行なったり、地域での会合に住民の一人として参加し交流するように努めている。また、地域との交流を深めるための一環として回覧板や市政だよりの当番にも参加し区役を実施している。	○	福祉まつりや地域行事への参加を今後も行なっていきながら地域の人との顔なじみの関係が継続できるように実施していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	近所の方からの認知症に関してのお尋ねや運営推進会議の際に民生員の方からの認知症の関わり方など質問にたいしてアドバイスしている。	○	地域に対してもっと認知症高齢者のことを知っていただくための取り組みとして介護教室や認知症の勉強会を開催していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	日頃マンネリ化しやすい業務の中で自分たちのケアのあり方を振り返る良い機会である。職員一人一人が認知症高齢者ケアについて学習できる良い勉強材料として評価後指摘があった部分に関しては職員勉強会で改善できる部分は話し合い早期に解決するようにしている。	○	外部評価に対する取り組みが今後の事業運営にプラスになるように勉強材料として理解し、活用する。また、自分たちの目指す理念への実現に向けた取り組みを前向きに取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではひまわり21でのご利用者の生活状況やケアの実際を見ていただき自然な形でホームの雰囲気を知っていただくように取り組んできた。外部評価の公開やホームで現在取り組んでいる内容を説明しながら推進員の方からの意見、要望等ある際には代表、管理者に申し送り対応している。	○	運営推進会議も回を重ねるごとに充実したものになってきているのを実感するので、もっとグループホームの運営に協力していただけるように第3者から見てひまわり21の事をどんどん知っていただき意見を頂きたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域密着型サービスになり市町村担当者の方と運営推進会議を通じて気軽に交流が出来、地域での認知症高齢者介護のチームとしてサービス向上に対して協力していただけると実感できた。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度のついて職員全体で勉強会の必要性がある。自己学習や研修会への参加を行い知識を深めたい。	○	現状、全職員が地域福祉権利擁護の内容を把握できてはいないので勉強会や研修に参加し理解していきたい。運営推進会議を利用し地域福祉権利擁護の勉強会を開催していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホームでの虐待は無いと思いついでいる部分に実際世間で行なわれている虐待の実例を挙げて職員一人一人に振り返ってもらい虐待防止に努めている。	○	誰もが虐待はだめな事であると理解しているがそれでもいろんな事情で虐待をしてしまうと思う。その時の虐待する側の精神状態がどのようなものか？など実際に身近な事例を通した勉強会を行ってほしい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	○	<p>家族への協力を今以上に依頼し利用者本人の安心にもなる事を理解してもらいながら協働しながら本人の生活を支えていきたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	<p>どうしても家族の立場から利用者を預かってもらっているという意識が見えるので家族を巻き込んでケアに努めていきたい。家族はもっと希望を出していただきたい。それが自分たちケアする側の勉強にもなるはずである。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同一法人内での異動あるが他事業所との交流を日常的に行っている事で入居者と職員とのなじみの関係が損なわれないように配慮しながら人事異動については慎重に行なっている。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修への参加やその他認知症に関する研修会へ参加する機会を設けていただいたり内部でも役職に応じた研修会や事例をとおしての勉強会を行なっている。	○	長期的、継続的に職員の現状での課題を把握しながら段階に応じたトレーニングを行っていき、ホーム内でよい人材を育成し長く勤めてもらえるように取組んでいきたい。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に積極的に参加し他事業所との情報交換や意見交換を行ったり、職員同士での交流会を行なう機会を設けて連携体制に取り組んでいる。	○	研修会以外の機会にも近隣にあるグループホームやサービス事業所との交流を図りスタッフ同士での意見交換やストレス発散のいいきっかけ作りが出来るように取組んでいきたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	当会全体での食事会や慰安会、また各部署での職場以外での話し合いの場を開催しストレス軽減につとめている。また、最近は職員同士でビーチバレーを行いストレス軽減の取り組みとしていろいろな活動を行っていく予定である。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	定期的な勉強会開催はもとより、常に自身の自己研鑽に努めることを推進しておりスタッフで介護書籍の購入やその他自己学習に取り組んでいけるように促している。専門職としての自信に繋がる様に資格取得のための勉強会を開催し、人間性の伴う資格の取得に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	環境の変化が本人に与えるダメージを理解し不安なく過ごせるように職員全員が本人にしっかり関わる時間を持ち早く慣れていただくように取り組んでいる。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の生活状況をしっかり把握することに努め、今までのサービス状況から現サービスを利用するに至った経緯などを情報収集し本人に関わるすべての方と協力しながらケアが出来るように取り組んでいる。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況を見極めながら家族と本人の意向に沿うサービス提供が出来るように努めている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	混乱なく段階的にサービスに繋げていくように他のサービスとの組み合わせなどを検討しながら支援できるよう努力している。	○ 入居者のほとんどは入所当時帰宅願望があられ家に帰りたいと言われていた。本人が本当に納得してサービス開始できた事例を学びたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	炊事や家事など日常生活全般において利用者と共に活動する事に努めておりその中で共に学びあったりする時間が日常的にある。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ホーム内での活動で家族参加の機会を促して一緒に過ごす時間を提供できるように取り組んでいる。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の関係を十分に尊重しながら自分たちの介入が良い家族関係の構築になるように本人の思いを代弁したり家族の思いを本人に伝えたりしている。	○	利用者や家族が双方にとっていい関係がたもたれるように自分たちがいると思う。いい関係が保たれるために自分たちが利用者の代弁者となり家族に思いを伝えたり、家族からの思いを利用者に分かるように伝えていける様に考え自己研鑽していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域密着型サービスになり、ご利用者が住みなれた地域で生活をされるようになった事でホームから近所に散歩に出かけたりするとなじみの知り合いがおられ声を掛け合ったりされるので関係を絶たないように今後も積極的に取り組んでいきたい。		受診や散髪など今まで行っていた場所への訪問を継続して行くようにし、今まで築いてきた関係を絶たないように今後も取り組んでいきたい
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲の良い利用者への更なる関係作りに努めた活動への参加や呼びかけを行ないその中で話し合いながら行なえるように支援している。	○	認知症の程度や身体状態の程度に関わらずに入居者同士がよい関係を築けるよう支援していきたい
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ご利用者が入院された場合にはお見舞いに言って安否を気遣う取り組みを行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分自身で思いが表出できる入居者の方には生活の希望などを聞く機会を持つようになっている。訴えが困難な方には家族の方と相談したりミーティングの中で本人の生活の要望などを皆で話し合っ て支援している。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に今までの生活歴を情報収集することはもちろんの事、本人との日頃の会話の中で聞きだして記録に残したり家族面会時に本人からは聞き出せない生活歴などを教えてもらってそれをケアの中に生かす様に取り組んでいる。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人に応じた生活時間を大切にしていこうように努めており毎日の生活の中では特別に決まったレクリエーション行事を入れないようにしており日常活動の中でリハビリ的志向を持ってケアにあ たっている。	○ 定期的なケアカンファレンス以外にも日々変化があった場合にはその都度評価を行い課題分析して いきたい
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や関係機関との連携を図るようにして本人の生活が充実するためにそれぞれの立場からの思いやきづきをケアに反映させるように取り組んでいる。	○ 家族や本人にも参加してのケアカンファレンスを 実現させていきたい
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にケアカンファレンスを実施しているがまだ入居者の変化があった場合に緊急的なプラン変更に応じきれない場合がある。変化があった場合にはミニカンファレンスで話し合いながら検討したり家族への報告等を行う事で対応している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録やケアチェック表を設けて必要な情報を確実に記録に残し全職員が日々の本人の状態を確認した上でケアにあたるように実施している。	○	家族や本人にも見ていただけるような表現の仕方を行いスタッフだけの記録理解にならないような取り組みを行い情報の共有化に努めていきたい
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームと併設の有料ホームと連携をとりながら入居者同志の交流を図ったり他事ぎょうしょのデイサービス事業所に訪問したりして協力体制をとっている。	○	事業所間同士の隔たりをなくしいつでも交流が出来るように入居者や職員の交流を図りながら馴染みの関係作りに努めていきたい
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議を機に地域の民生委員の方々との交流も盛んに行なえるようになり入居者の方々と地域行事に参加したりホーム内での行事への参加やボランティア慰問が盛んになり地域の交流と協力体制が出来つつある。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の福祉サービスを利用するまでは至っていないがケアマネジャーとの連携をとりながらケアのアドバイスを受けていたりしている。	○	地域にある福祉サービスやインフォーマルなサービスを利用しながら入居者が地域への社会参加が出来るように取組んでいきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現状、地域包括支援センターとの連携は十分とはいえない。どちらかといえば岱明町の介護保険担当者が相談や協力にのって下さっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	○	<p>馴染みの主治医が24時間体制で往診可能かどうか今後ターミナルケアの必要性が出てきた場合には不安がある。その事を踏まえたうえで主治医の検討をしていきたい。</p>
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	<p>主治医意図の連携を強化しスタッフはじめ家族の方や地域の方々に認知症高齢者の理解のための研修会を開催していただくようにしていきたい。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	<p>健康管理の面からも現在は看護師は十分に確保できていると思う。今後も生活全般における介護と看護を組み合わせながら入居者の健康管理に対して不安なく生活が送れるように支援していきたい。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>実際にターミナルケアに直面した事がなくそのような状況になった場合に可能な限りホームでの看取りを実現させていきたい。スタッフにはそのための力量も必要で不安感もあるだろうが入居者のターミナル介護を行うことで自分たちの介護技術の向上になればと思う。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		<p>ターミナルケアにおける指針を作成して入居時に説明を行なっている。また、事業所でターミナルケアを要望される入居者の方には主治医や看護職との連携を図りながら家族との情報交換を行ないながら対応していきたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>グループホームから在宅へ変えられた方がおられその際には家族や本人の不安がないようにスムーズに在宅復帰できるように十分に話し合いを行いながらケアの方向性を検討しながら実施してきた。今後もそのような関わりを行ない環境の変化におけるご利用者のダメージを最小に抑えるようにしている。</p>	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>言葉かけや対応には十分に注意しながら日々関わりを行なっている。記録への記載についても表現に注意しながら個人名を特定しないような記入の方法を取り入れながら書いている。</p>	<p>○</p> <p>皆が集うホールでのトイレ誘導などの声かけは耳元で本人にだけ分かるように伝えたり違う言葉かけで誘導して配慮しているが入居者の中には気づく方もおられプライバシーへの配慮に難しさがある。</p>
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>本人の希望を尊重する声かけや関わりを大切にしている。言葉かけには「～しましょうか？」という風を選択できる声かけを行なうように努めている。</p>	<p>○</p> <p>どうしてもまだスタッフの中には自立支援の意味が理解できていないところもある。過剰介護にならないように待つ事、見守る事の重要性を理解して入居者の能力を引き出す関わりをしていきたい。</p>
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者の起床時間や入床時間など決まりはなく本人のペースに合わせた時間の中で過ごしていただけるように職員は見守っている。また、その時期に応じた会話を意識しながら入居者の活動促進に繋がるような関わりを大切にしている。</p>	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>基本的に離美容院には馴染みの行き慣れた店を選択して行くようにしている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じて金銭管理を出来る方には個人で管理していただきそうでない方にはホーム側で預かって管理したり立て替えたりしている。外出行事には皆が買物出来るような機会を持ち、金銭能力が維持出来るように努めている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	それぞれの身体能力に応じて外出手段を選び全員が外出する機会を設けるようにしている。	○	外出を希望されない家族の要望があり理由としては施設に入所しているのを知られたくないからとの事。理解を得るために家族と話あっているが地域の理解も必要であると感じる。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族と共に外出できるような機会を設けており敬老会やモチツキ大会などホーム内でのレクリエーション活動を開催し入居者とともに参加する機会を設け支援を行っている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム内には自由に使える公衆電話を設置しており入居者の方は話したいときに自由に使用できるようにしている。手紙に関しても字が書ける方は積極的に家族への近況報告などを手紙で書いていただいている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも訪問は可能である。訪問時には家族と本人がゆっくりと過ごす事が出来るように支援している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はない。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間帯以外は基本的に施錠は行なわない。認知症の強い方で他者の居室へ進入される方がおられるがその方の行動は規制できないので他入居者が自ら居室の施錠をされる事はある。		
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	把握している。特に外に出て行こうとされる方への所在確認はスタッフが連携を取りながら安全に生活できるように配慮を行っている。		徘徊のある方がホームの外に出て行かれることがあり車の通りがあるので安全を確保するためにゲートを取り付けた
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	基本的に入居者の状態を見極めた上で環境に対する配慮を行っている。刃物など注意が必要な物品に関してはスタッフが見守れるようにしたり異食行為の危険性がある入居者には危険性のある物品を置かないようにしている		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	定期的に防災訓練を実施したり勉強会の中で事故及びひやりハット報告を話し合ったりして職員全員で事故防止への意識を高める取り組みをしている。	○	リスクマネジメントの研修に参加し事故防止に対する日頃からの取り組みが大事である事を学んだのでそれを職員に勉強会で伝達し意識を高めていくようにする。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時のマニュアルを整備して定期的に訓練を行っている。	○	緊急時の対応で経験のないスタッフはいざというときにどのような対応をすればいいか戸惑うと思うので日頃からシュミレーションを行い緊急時に迅速な対応ができるように周知徹底を図っていく。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急連絡網を作成してスタッフがいつでも駆けつけるようにしている。また、緊急時の対応策として近所の方が待機職員として契約をされておりいつでも災害時には駆けつけてもらうようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時に本人の状態報告を行い起こりえるであろうリスクを説明しながらその中で本人が安心した暮らしが出来るように対応策を話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックで体調管理に努めているが、いつもと容態が違っていると気づいたらささやかなことでも看護師に報告し重大になる前に早期発見早期治療に心がけている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については薬剤情報をもらいスタッフが分かるように個人のファイルに閉じこんでいる。病名と薬の効果、副作用など情報を理解したうえで服薬を処方している。	○	スタッフ各自が入居者の疾患を十分に把握できておらず服薬の種類など理解したうえで服薬支援が出来るようにしていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便に関してなるべく薬を頼らず自然排便が出来るように普段の食事や水分摂取、運動を行うように心がけている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後歯磨きの声かけを行い口腔ケアをおこなっている。入居者によっては昼は磨かれない方がおられるが朝・夕は確実に全員が口腔ケアを行っている。その際に口腔内の観察を実施。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表にて毎回どの程度の摂取量であったか確認出来るようにしている。食事量が少ないときには体調確認を行い、時間を置いて提供したり栄養価の高いもので代用したりしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症マニュアルを作成したり書籍を購入しスタッフで回覧して。普段の掃除の中で手すりやフロアー、椅子など集団で使用する物品の拭き掃除を行って感染予防に努めている。	○	常に手洗いや清掃に心がけるように定期的に感染症に対する勉強会を行っていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食事衛生マニュアルを作成しており台所に掲示している。また台所や手洗い場などに全員が分かるようにイラストで手洗い方法などを掲示している。台所用品はハイターで定期的に消毒を実施。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	家庭的な雰囲気を出すために解放的に明るく季節の花を生けたり行事写真を掲示して工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を出すための環境整備を大事にしている。季節の飾りや家具の配置、ホールから見える外の風景にも季節を感じさせるような工夫を行っている。	○	教養空間は毎日掃除を行い汚れやすいトイレや流しなどはその都度清掃を行い入居者が気持ちよく使用していただけるように今後も取組んでいきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファを数箇所配置している事で好きな場所で気の合う方同士過ごしたり廊下にも椅子を設置してそこで過ごしたり思い思いの場所で過ごせるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	基本的に居室には本人の馴染みの家具や写真を持 ち込んでいただくように家族へ協力を御願ひして いる。仏壇を持ってこられたり各自自分の大切な ものや馴染みの品物を持ち込んで生活されてい る。	○	個人個人の特性に応じた居室環境にしていくため に家族に対しての声かけを行ない居心地よく過ご していただける居室にしていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	温度計を設置し、室温や湿度、室内の環境整備に は注意をしながら出来るだけ外気と違わないよ うに配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	室内はバリアフリーである。トイレや風呂場、廊 下など必要な場所に手すりがあり必要最低限生活 に支障をきたさないようにつくりになっている。 入居者の状態に関わらず、できるだけ制限がない よう、また自分で出来るような建物構造になっ ている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	居室には表札を下げても自分の部屋と分かるよ うにしたりトイレにも表札をしている。その他馴染 んできている生活環境をこちらの都合で変えない ように十分に検討したうえで廊下やホールの家具の 移動を行っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	中庭がありホールからすぐに出られるようにス ロープを設置している。そこで洗濯干しや草花の 手入れなど実施できるようにしている。天気がよ く気候のいい日には外に出て皆でご飯を食べたり お茶会をして季節感を肌で感じながら過ごしてい る。	○	作り物の季節感ではなく季節ごとに換わり行く自 然の景色をそのときそのときに新鮮な内に見てい ただけるように今後も取組んでいきたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ 四季折々の行事を昔ながらのやり方で行っており、入居者が実体験で季節の移ろいを感じてもらえるような取り組みを行なっている。
- ・ 理念に基づいた尊厳と権利の保証で入居者を姓で呼び敬語を使用することに徹底している。
- ・ 職員教育に力を入れて取り組んでおり、日々自己研鑽を行うことを意識しながら業務に取り組む姿勢を養っている。介護の専門性をどこに見出すか？一人一人の心模様を観察し職員はその場の状況に応じた適切な関わりが出来るように勉強会や研究発表会を開催するなどして努力している。